

認定NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

(振込先:郵便局 02790-6-9847 北海道自由が丘学園をつくる会)

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11 TEL(011)858-1711 FAX(011)858-1333

URL <http://www.hokjioka.net>

E-mail : codmokan@agate.plala.or.jp

支援会員・寄金 3,000円 (年額)
*会員には、本通信を配布します。



INDEX

- P1: 巻頭言
- P2: ヒューマントラスト/運動、会費
- p3: 23 講座第1 回レポート
- p4-5: スクールキャンプ
- p6-7: 農業、初等/遠足
- p8: エッセー、カレンダー、後記
付) 講座第2 回チラシ他

<7/22: 講座「子どもの権利条約、子どもの権利」>

昨年に続く「基本的人権」の共催講座。本年は子ども達の置かれている状況、あるべき方向等を4-5 回企画。1 回目の様子。[右上/キャンプ 1 コマ]

「子どもはだんだんと人間になるのではなく、すでに人間である」

「子どもは《自分の人生》を生きるべく、自ら生まれ出てくる存在」 (Y・コルチャック)

～講座第1 回、塚本講師のもとに研修。その資料などからコルチャック及び講師のエッセンスを紹介します。
～「コルチャックと『子どもの権利』の源流」(以下、源流。2019 塚本智宏著作)からも引用しました。

- 日本は、子どもの権利条約の中の最も重要な部分、子どもの意見表明権について、国連の子どもの権利委員会により、日本の大人達の子どもに対する「伝統的な見解」のためにこれを受容することができないというの評価を下され続けている。その大人の伝統的な見解が、長期にわたり形成されてきた歴史的なものだと考えるとき・じっくりと進む以外にないのだとも思う。子どもの権利の前進のためには、コルチャック流に言えば「大人の成長が不可欠」なのである(「源流、はじめに」)
- 「あなたは子どもとのつきあいは疲れるという… “子どもの考えまで降りなきゃならない” と説明するのは間違い… 私達(大人)が疲れるのはそのためではなく、彼らの感性の高みにまで高まらなければならないからだ」(コルチャック、以下同じ) ■「子どもと議論すべきではない、そうではなく一緒に感じる必要があるのだ」 ■「感性の分野ではその力において我々にまさっている。なぜならそれを阻止するものが作り上げられていないからである… 不足しているのは経験だけ…」
- 「教育者は、はるか将来に向かって責任をとることを義務づけられているのではなく… 今日という日に責任を負う。教育者は人間/子どもを理解し、そして社会/子どもの集団を理解しながら働くことによって、重要な価値ある真理の理解に到達・成長するものだ」
- 「19 世紀末から 20 世紀・歴史上初めて子どもの生活・子ども期を全体として捉え始めた時期… その転換期に形成され始めた、子どもは教育によって人間的に形成され完成されるのだという一面的な近代的思想が圧倒的になる程、コルチャック思想はそれと対立するものだった」(「源流」)